

女性の美容関連支出に関する研究ⁱ

東京国際大学
上枝朱美

2015 年 1 月

要旨

近年、美容や健康に関心を持つ人が増加している。現代の日本では、社会生活を送る上で化粧が必要になっている。美容に関する消費は、職業や収入などの経済的な状況の影響も受けていると考えられる。

そこで本稿では、女性の美容に関する意識や消費支出について 2006 年 11 月に東京 23 区および政令指定都市に居住する 20 歳から 59 歳の女性 2,500 人を対象に行われたインターネット調査のデータを用いて分析を行った。

その結果、美容関連の支出は、年齢や未婚か既婚かによる違いはみられなかった。世帯年収や本人の年収といった経済的な状況の影響は、はっきりと受けている。職業では、会社役員や経営者が多く、学生は少なかった。また就学前から小学生といった低年齢の子どもがいると少なくなっていた。

また日常生活できれいな女性でいることの重要度は、年齢が高くなるにしたがって低くなっていた。世帯年収が高いと重要度は高くなっているが、本人の年収は影響していないことが明らかとなった。職業による違いは見られなかった。就学前や小学生がいると低く、子どもが独立していると高くなっていた。

ⁱ (二次分析) にあたり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJ データアーカイブから「現代女性の美しさへの意識調査,2006 (ポーラ文化研究所)」の個票データの提供を受けた。ここに記して感謝の意を表したい。なお残された誤りは筆者の責任である。